

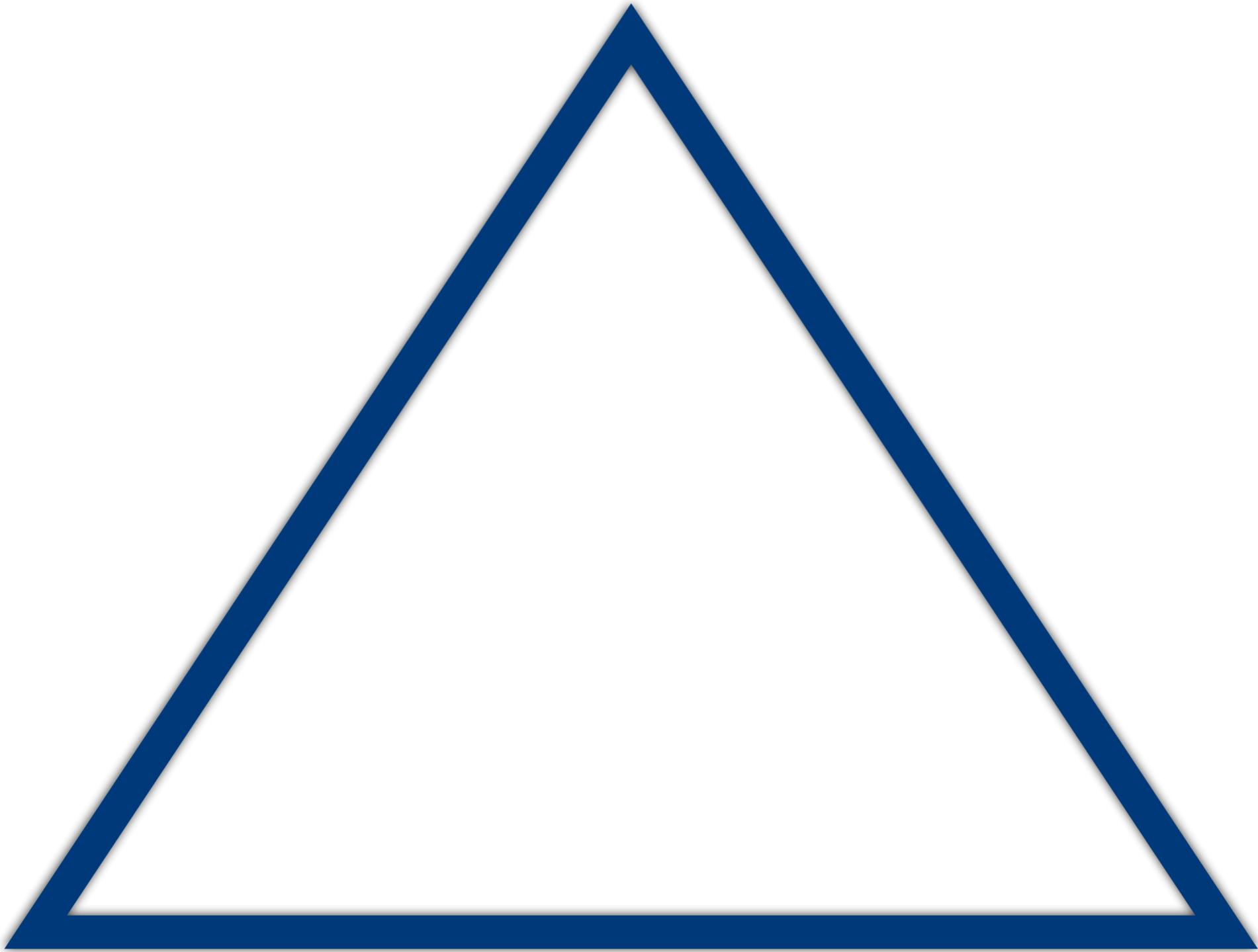
# 転移の可能性を高めるアクティブ ラーニングの授業モデル -2014年授業結果を元にして-



筒井 洋一（京都精華大学）  
大木誠一（神戸国際大学附属高校前教員）

発表資料は、以下から  
ダウンロードできます

「つっい・めでいあ」



三つの問い

# 第一の問い

教員とは、知識を教える人？

ネットコンテンツに勝てるか？

学習中心にするなら、  
教授側をチェックするのではなく、  
学生がどのように学習できたかを  
チェックすべきだ

大学教育学会2018年大会L. D. フィンク教授発言

# 教員とは？

学生の学びを促進する  
プロデューサー

授業の場づくりや  
学習プロセスの  
コンサルテーション

# 第二の問い

教室は、  
社会の縮図と  
なっているか？

# 授業の目的

知識や考え方の習得だけでなく

授業で学んだことが

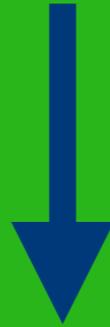
授業外で活かせること

教室で学んだこと



授業外や社会でも  
活用されること

授業外で活かせること



現実の社会で活かせること



自分の属する社会や人間とは  
異なる価値観の中で生きる

# 第三の問い

もしのべ450名の見学者が  
授業にやって来たら？

毎週平均10名の見学者が  
授業にやってきたら

# のべ見学者数

2013年前期		9	5	名
2013年後期		6	5	名
2014年前期		7	0	名
2014年後期	1	2	0	名
2015年前期		9	3	名（現在）

448名

# 授業協力者(Creative Team; CT)

- 1 5週間、教員と一緒に授業を作る  
学外ボランティア

2013年前期	3名
2013年後期	4名
2014年前期	6名
2014年後期	4名
2015年前期	5名



未来の学習空間

学生

授業

教員

学外者

ゲスト講師やTA  
とは違った、  
教員とフラットな  
立場の  
第三者の参加

教員の価値観だけでなく  
はななく、  
異なる価値観を  
受容する中で  
学ぶこと

第三者の  
授業支援で  
学生の学びを  
促進する

2014年後期  
A大学  
人文学部  
「情報メディア論」

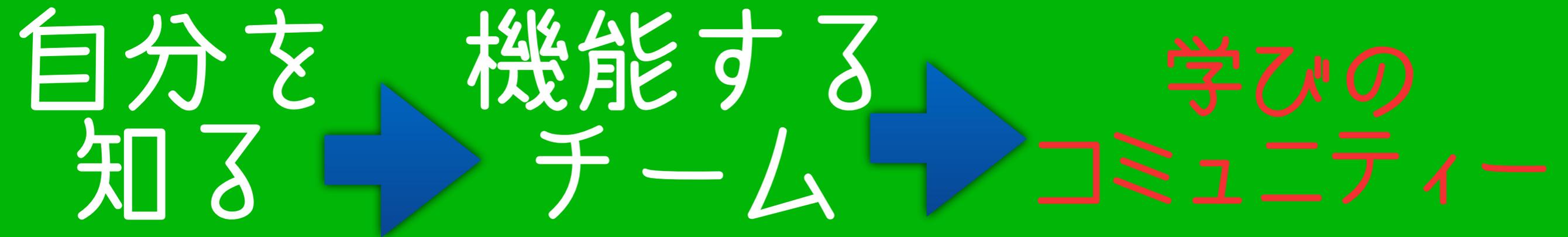
# 授業目的

1. 情報メディアを日常生活において適切に活用できるようにする
2. 社会において、チームの一員として行動する

授業を  
オープンかつ、  
フラットにする

教室に  
社会と同様の  
カオスを  
出現させる

# 学生の変容



対人関係スキル

授業外に**転移**